

キラリ
十和田人
— 第46回 —

空高らかに 響け！祈りのラッパ

十和田市消防団ラッパ隊



MEMO

消防団は、地域の消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わず、地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。現在、十和田市消防団（角田弘信団長）の団員は約750人。そのうち20人が女性です。

十和田市消防団ラッパ隊（沢目勝弘隊長）は、昭和48年に消防団員の士気高揚を図ることを目的に設立されました。現在隊員は17人。

1月17日に開催された出初式。官庁街通りを、消防職員と消防団員合わせて745人と消防車両50台が、ラッパ隊の演奏に合わせてさっそうと行進しました。

同隊のレパートリーは15曲ほど。行進曲や観閲官の登壇の時の曲など、暗譜も完璧です。

使う楽器は、ド・ミ・ソの3つの音しか出ない信号ラッパと呼ばれるもので、音を変える装置が付いていないため、マウスピースにあてる唇の形と圧力で音を変えます。

結成当初、ほとんどの隊員が素人だったため、自衛隊に体験入隊して猛特訓をうけたことも。その成果もあり、メキメキと腕を上げた同隊は、昭和55年、東京都で行われた消防百年記念大会へ出場し、全国の代表として演奏するという偉業を成し遂げました。

「私たちのラッパの音で、徒歩や車両の行進、儀式などが遂行されると充実感と一層の責任を感じます」と話す隊員の皆さん。

最近の消防団員数の減少については「若い人には是非、消防団に入ってもらいたい。地元には若い人がいるけれど、生活が多様化しているのが誘うのが難しいのが現状。地域のつながりが少なくなっているのを感じますね」と話します。

「もし大きな災害が起きたら、市

民を守るには、消防職員だけでなく、消防団の力が絶対必要になります。また火災時には、消防署の車が駆け付けるまでの消火を担うなど、地域の細かな情報を知っている消防団は地域になくしてはならない存在ですよ」と消防団の意義を熱く語ります。同隊が奏でるラッパの音は、消防団員の士気を高め、安全・安心のまちづくりを進めます。ふるさとの平穏を祈るラッパは、これからも響き渡ります。



今回お話を伺った沢目隊長（写真右端）と隊員の皆さん



消防団員募集

お問い合わせは
十和田地域広域事務組合
消防本部

▶ 警防課消防団係

☎ 0130

▶ 総務課防災係

☎ 6703

女性団員とラッパ隊員
大歓迎です！